



講演会・事例検討会 2023

日時

2023年7月8日(土)
13:00～16:20 開場 12:30

第1部 講座 13:00～14:00

「セルフアドボカシースキル獲得に向けて ～発達障碍の子どもに身に付けて欲しい力～」

「セルフアドボカシー」という言葉を知っていますか？

2016年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。この法律を活用するためには、当事者自らが自分の特性を理解し、自分に必要な支援を求められる力を必要とされています。このことは「セルフアドボカシー」として欧米で広く浸透していますが、日本の発達障碍者支援では、いまだ新しい用語です。

この講座では、発達障碍者や軽度の知的障碍者に身に付けて欲しい力としての「セルフアドボカシースキル」を分かりやすく解説します。

講師：菅原伸康氏 関西学院大学 教育学部／教育学研究科 教授

知的障碍や学習障碍の子ども基礎学習教材、重複障碍の子ども教育支援機器の開発と製作を行い、自作教材・支援機器を使用した子どもの成長・発達支援の長期実践事例を研究しています。

また、学習障碍など発達障碍の子どもを含めた「集団での授業づくり」や「個別指導」、幼稚園や小中学校の担任教師の悩みに対してのコンサルテーション、協働・連携による授業づくり・学校づくりも行っています。

第2部 事例検討会 14:20～16:20

A～Hの8グループに分かれて行います。
各グループの話題提供者からの事例について検討します。

定員は各グループ 15名です。
グループの詳細は裏面に記載しています。

保育士、
幼稚園・
小学校教諭、
施設職員など
発達支援や教育
にたずさわる方

場所

関西学院大学
西宮聖和キャンパス
6号館

西宮市岡田山7-54

*詳しくは
「西宮聖和キャンパス交通アクセス」
で検索

対面実施

参加費

2,500円

申込み

下記QRコードからお申込みください



A～Hグループの中から選んで
お申込みください
各グループ定員15名

第2部 事例検討会 グループテーマ・講師紹介

A.佐藤寛氏 関西学院大学 文学部 教授
専門：臨床心理学、認知行動療法、臨床児童青年心理学

『子どもの不安の見立てと対応』

子どもは不安になるものですが、成長の過程で見られる一般的な不安と、何らかの対応が必要になる不安とはどこが違うのでしょうか。子どもによく見られる心のトラブルの1つである不安について、心理学の視点から見立てと対応を考えていきましょう。

B.菅原伸康氏 関西学院大学 教育学部 教授
専門：知的障害、重複障害、学習障害

『子どもの行動の読み取り方』

障害のある子どもの示す行動には必ず意味があります。子どもたちは、日常生活の中でたくさんの課題をばらまいています。それを係わり手である私たちが気づき、行動を起こせるかが大切なことです。

C.立花直樹氏 関西学院聖和短期大学 准教授
専門：専門職教育、安全対策・災害支援、障害児・者支援、組織マネジメント、ソーシャルワーク、保護者支援

『切れ目のない支援、隙間のない支援をめざして』

障害児・者支援施設等で勤務経験があり、現在も障害児・者支援の福祉施設や保育施設、医療機関等の運営に携わり、教育委員会のアドバイザーを務めています。教育者や保育者の先生方と共に悩みや課題を共有し「子どものよりよい未来」を考えたいと思います。

D.丹羽登氏 関西学院大学 教育学部 教授
専門：特別支援教育、病気や障害のある子どもの支援、障がいのある子どものICT活用、いじめや不登校への支援

『子どもの特性といじめ・不登校の子どもへの支援』

小学校・特別支援学校・教育委員会・文部科学省と、学校現場と行政に携わってきました。専門は身体疾患と精神疾患のある子どもの教育と支援ですが、近年は子どもの特性に関連するいじめや不登校と関わるが多くなりましたので、一緒に考えていきたいと思っています。

E.松井学洋氏 関西学院大学 教育学部 准教授
専門：小児保健、健康教育、病気や障がいのある子どもとその家族への支援

『発達的气になる子どもの不器用さへの支援』

ボタンが留められない、ハサミが使えない、うまく文字が書けない、縄跳びができない。手先の細かな操作や身体全体を使う運動が極端に苦手な子どもたちがいます。不器用な子どもたちを支えていくために、支援者に求められることを一緒に考えていきましょう。

F.米山直樹氏 関西学院大学 文学部 教授
専門：臨床心理学、行動療法、応用行動分析

『困った行動への対応について』

発達相談をしていると、「困った行動」をどう無くしていけば良いのかと尋ねられることがあります。しかし大切なのは困った行動を無くすことではなく、適切な行動を増やすことです。このグループでは「ポジティブ行動支援」という枠組みから困った行動への対応を検討します。

G.和田薫氏 関西学院聖和短期大学 非常勤講師
専門：障害児保育、実習関係、保育内容、発達支援

『保育における発達支援～子どもがともに育つために～』

障害のある子どもが、集団の中で生まれているという視点を大切に、お互いの育ちを支える保育の在り方を、事例を通して共に考えていきます。皆様の知恵を紡いでいきましょう。

H.小林史乃氏 関西学院子どもセンター 発達支援事業職員
専門：臨床心理学、学校臨床、発達支援（相談・検査・療育）

『実践できる支援アイデアをふやそう』

小・中・高校のカウンセラー、発達外来の心理業務等を経て、今は子どもの発達や保護者支援に従事しています。子どもと関わる上で「視覚支援」「見通し」「環境設定」「ワーキングメモリー」などのよく聞かれる言葉を現場でどう実践するのか、現実的にできることを考えましょう。

事例提供について

- お申込み後にこちらからメールにて事例検討用紙を添付いたしますので、話題提供者として事例を提供して下さる方は、**事前（6月30日迄）**に提出をお願いします。
- 当日事例検討を行う上で、提出いただいた事例検討用紙のコピーを資料として配布しますが、事例検討会終了後に回収し、シュレッダーにて廃棄いたします（原本は返却いたします）。
- グループ内で取り上げられた事例について、みなさんで意見を出し合い、取り組み方を検討し学び合しましょう。

警報について

西宮市に『暴風警報』または『特別警報』が発令の場合は、7月8日（土）午前11:00の時点で状況のみて判断し、メールにてご連絡いたします。

問合せ

関西学院 子どもセンター 発達支援事業 ういんぐ

メール k.g.wing-kouenkai@kwansei.ac.jp



ホームページ